



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2019/07/30
SDS整理番号 22035350

製品等のコード : 2203-5350
製品等の名称 : 塩化ビニル, ポリマー (ポリ塩化ビニル)
推奨用途 : 試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分外
皮膚腐食性・刺激性 : 区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分外

シンボル、絵表示 : 該当なし
注意喚起語 : 該当なし
危険有害性情報 : 該当なし

注意書き

【安全対策】
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。
【応急措置】
該当なし
【保管】
直射日光を避け、容器を密閉して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「区分外」又は「分類できない」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
化学名 : 塩化ビニル, ポリマー
(別名) ポリ塩化ビニル
(英名) Vinyl Chloride, Polymer
成分、含有量 : 塩化ビニル, ポリマー、約100%
化学式又は構造式 : $(-CH_2 : CHCl-)_n$, $n = 1050$
分子量 : 不定
官報公示整理番号 (化審法) : (6)-66
CAS No. : 9002-86-2
危険有害性成分 : 特になし

4. 応急措置

- 吸入した場合：呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合：皮膚を流水と石鹼で洗う。
皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
- 目に入った場合：直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
- 飲み込んだ場合：口をすすぎ、うがいをする。
コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の措置

- 消火剤：この物質は難燃性。周辺火災に適応した消火剤を使用する。
散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など
- 使ってはならない消火剤：特になし
- 特有の危険有害性：火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：風上から消火活動をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上に留まる。
低地から離れる。
- 環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 回収、中和：漏出物を掃き集め、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処分する。
後処理として、漏洩場所は大量の水で洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：
危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
滑りを防止するため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策：特になし
- 局所排気・全体換気：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
接触、吸入又は飲み込まない。
粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合は、排気用の換気を行う。
目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避：特になし
- 保管
- 技術的対策：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- 保管条件：直射日光や高温を避けて保管する。
容器を密閉して保管する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質：強酸化剤
- 容器包装材料：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度：未設定
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会（2018年版）：未設定
ACGIH（2018年版）：未設定
- 設備対策：取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
この物質を貯蔵しない取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具	
呼吸器の保護具	： 保護マスク（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋を（塩化ビニル製、ニトリル製など）着用する。
眼の保護具	： 眼の保護具（保護眼鏡、側板付き保護眼鏡）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 保護衣、顔面用の保護具を着用する。
衛生対策	： 取扱い後はよく手を洗う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。

9．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	： 白色の固体（粒状又は粉末）
臭い	： 無臭
pH	： データなし
融点	： 170
沸点	： データなし
引火点	： データなし
爆発範囲	： データなし
蒸気圧	： データなし
蒸気密度（空気 = 1）	： データなし
比重（密度）	： 0.55 g/cm ³ （かさ密度）
溶解度	： 水、メタノール、エタノールに溶けない。 シクロヘキサン、ニトロベンゼン、クロロホルム、 テトラヒドロフランに溶ける。
オクタノール/水分配係数	： データなし
自然発火温度	： データなし
分解温度	： データなし
燃焼性（固体、ガス）	： 難燃性
粘度	： データなし

10．安定性及び反応性

安定性	： 通常取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	： 強酸化剤と反応することがある。
避けるべき条件	： 日光、高熱
混触危険物質	： 強酸化剤
危険有害な分解生成物	： 火災等で強熱分解すると、ハロゲン化物、一酸化炭素ガスを発生する。

11．有害性情報

急性毒性	： 経口 データがないので分類できない。 経皮 データがないので分類できない。 吸入（蒸気） データがないので分類できない。 吸入（粉じん） データがないので分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	： データがないので分類できない。 物理的な刺激が発生することがある。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	： データがないので分類できない。 物理的な刺激が現れる可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	： 知見がないので分類できない。
生殖細胞変異原性	： 知見がないので分類できない。
発がん性	： 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSАの国際 評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性	： 情報がないので分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	： 情報がないので分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	： 情報がないので分類できない。
吸引性呼吸器有害性	： データがないので分類できない。

12．環境影響情報

水生環境急性有害性	： 情報がないので分類できない。 ポリマーのため、水生生物への有害性は少ないと推測される。
水生環境慢性有害性	： 情報がないので分類できない。
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない ため、分類できないとした。

13．廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた 産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付
-------	---

して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
 (参考) 焼却法
 可燃性溶剤に溶かし、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ噴霧し、出来るだけ高温(ダイオキシン発生抑制のため850℃以上)で焼却する。
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制(適用法令)
 陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
 海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
 航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
 国連番号 : 非該当
 国連分類 : 非該当
 品名 : 非該当
 海洋汚染物質 : 非該当
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 消防法 : 非該当
 化学物質管理促進法(PRTR法) : 非該当
 船舶安全法 : 非該当
 航空法 : 非該当
 輸出入貿易管理令 : キャッチオール規制(別表第1の16項)
 第39類 プラスチック及びその製品
 HSコード(輸出統計品目番号、2019年4月1日版): 3904.10.010
 「ポリ(塩化ビニル) - 塊、粉、粒、フレークなど」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :
 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
 化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編
 化学大辞典 共同出版
 安衛法化学物質 化学工業日報社
 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版
 化学物質安全性データブック オーム社
 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版
 化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修
 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
 GHS分類結果データベース nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
 GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。